

令和 2 年 4 月 22 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02452

研究課題名(和文) 『台湾愛国婦人』の内容に関する多角的研究

研究課題名(英文) Multilateral study about the contents of "Taiwan Aikokufujin "

研究代表者

下岡 友加 (SHIMOOKA, yuka)

広島大学・文学研究科・准教授

研究者番号：30548813

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：日本統治初期台湾で発行された愛国婦人会台湾支部機関誌『台湾愛国婦人』の内容を掲載小説、評論、落語、講談を中心に、複数の作家・作品に渡って多角的につまびらかにした。これにより、従来の作家全集・著作目録等に未収録であった作品の内実や履歴が初めて明らかとなり、彼ら/彼女らの仕事を再評価・再検討する新たな資料と視座を提供することができた。加えて、現在では無名である台湾在住の日本人作家たちの作品分析を通じて、当時の彼らの価値観の一端を明らかにすることにより、日本近代史・台湾史・植民地研究に資する考察を行い得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『台湾愛国婦人』は本研究開始時には全88冊中、52冊分しか発見されておらず、所蔵館も国内外に散在した稀覯本であったが、本研究期間中の2018年時に新たな資料が大量に確認され、復刻版の刊行へとつながった。本研究による継続的な研究の発信により、『台湾愛国婦人』の資料的価値を広く一般に知らしめることができたと考えられる。明治から大正期にかけて、外地で刊行された婦人雑誌の内容を精査することにより、日本近代文学が植民地へと市場を拡張していった様相を具体的に示すとともに、のちの昭和期に発刊される「外地」雑誌、新聞等メディアとの比較考察対象たりうる植民地初期媒体に関する貴重な考察となった。

研究成果の概要(英文)：It passed to more than one author and work focusing on a carrying novel, a critical essay, a rakugo and a story, and the contents of the patriotic ladies' society Taiwanese branch bulletin issued in Japanese government period Taiwan "Taiwanese patriotic woman" were made clear. Author's famous truth of a sheep record work of the complete works and history in Japanese modern literature became clear for the first time by this. It was possible to judge a something of their sense of values from a work for the Japanese author of nameless Taiwanese residence present, and it was possible to offer profited material to Japanese modern history, Taiwanese history and a colony research work.

研究分野：日本近代文学

キーワード：講談 新渡戸稲造 西岡英夫 国木田治子 尾島菊子 岡本かの子 加納豊 永代美知代

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

『台湾愛国婦人』は明治41年10月から大正5年3月まで、最も多い年(大正3年)で年間8万6175部が台湾島内に配布された(台湾総督府官房統計課『台湾総督府第13統計書～第20統計書』(明治44年2月～大正6年1月参照)、愛国婦人会台湾支部の機関誌である。発刊から3年後の明治44年時には、広告を含めると300頁近くの分量を備え、当時としてはかなり大部の雑誌であった。国内の愛国婦人会の機関誌『愛国婦人』(明治35年3月～昭和17年2月)が、発刊から大正9年末まで新聞形態を取っていたのに比して、『台湾愛国婦人』は第2巻以降に月刊雑誌となり、終刊までその形態が維持された。日本統治初期の台湾において、相当な資金と人力をつぎ込んだメディアの一つである。

しかしながら、本研究開始当初は対象媒体である雑誌『台湾愛国婦人』は全88冊中、52冊しか発見されていない状態であった。その内訳は、国立台湾図書館(台湾台北県)所蔵の15冊、国史館台湾文献館(台湾南投県)所蔵の1冊、函館市中央図書館所蔵の29冊、山武市歴史民俗資料館所蔵の12冊、三島市立図書館所蔵2冊、立教大学図書館所蔵の1冊、個人蔵の5冊である(発見巻には重複がある)。これらの所蔵については、平成24～26年度に助成を受けた、科研費研究課題「『台湾愛国婦人』の資料的研究」(研究代表者・櫻原修 基盤研究(C))が調査を行っており、本研究代表者は当該研究に研究分担者として加わり、雑誌の新たな巻を発見するなど研究を推進した。また、これにやや遅れるかたちで、國學院大学の研究報告書『『台湾愛国婦人』の研究』(平26.2)『同本文篇・研究篇』(平27.2)も編まれた。この研究報告書には、本研究代表者も学外特別研究員として論文を寄稿したが、上記のような経過を経て、稀覯本である本雑誌の内容は、ようやく少しずつ研究者のあいだでも認知されてきたというのが、研究開始当初の状況であった。

なお、雑誌は 帝国 日本 の台湾統治の実態を知るに重要な資料であるのみならず、内地 の著名作家や教育者の文芸作品や評論等を多く掲載している点に特徴を持つ。評論の寄稿者としては新渡戸稲造、棚橋絢子、羽仁もと子、青柳有美、三輪田元道、安部磯雄ら当代を代表する知識人・教育者が名をつらね、文芸欄の寄稿者としては広津柳浪、泉鏡花、伊藤左千夫、土屋文明、与謝野晶子、与謝野鉄幹、長谷川時雨、国木田治子、尾島菊子らの名が頻繁に見られ、内地 の一流商業文芸雑誌と比較しても、全く見劣りしない執筆陣を擁していた。外地 の雑誌に、このような内地 の作家たちが寄稿することで、愛国婦人会台湾支部の会員獲得のための誌面充実、並びに愛国婦人会の後ろ盾である総督府の権威づけがはかられたものと考えられるが、いかんせん、発見巻が限定されているため、雑誌の全体像や変遷を把握することは難しい状況にあった。

2. 研究の目的

1のような背景を踏まえて本研究の目的は次の三点とした。第一に、先行する科研費課題等の成果を引き継ぎ、内地 作家、教育者たちの全集未収録資料、著作年譜未記載資料の翻刻、公表、作品の内容分析を行うこと。第二に、在台日本人の寄稿した文学作品を分析し、統治初期の台湾に発生した近代文学創出の場の実態を明らかにすること。第三に、新たな雑誌資料を発掘・収集し、雑誌の全体像をさらに明確にすることである。予想される結果と意義としては、以下3点が考えられた。

- 1 日本近代文学・日本史における新資料を公開・分析し、各作家・各教育者たちの研究に益することができる。植民地への言及・関わりの実態から、彼ら/彼女らの再評価を行うことができる。
- 2 在台日本人の作品分析を通じて、台湾における近代文学創出の場を確認できる。内地 文壇との隔たりや連続性から、帝国 日本の文学状況を再考するための新たな資料を提供できる。
- 3 1,2の考察を踏まえて、婦人雑誌を通じた植民地におけるメディア言説の実態をつまびらかにすることができる。

3. 研究の方法

本研究の学術的な特色は、『台湾愛国婦人』という稀覯本の内容を広く一般に紹介し、外地 で刊行された婦人雑誌の実態を明らかにする点にある。先行する科研費課題に従事してきた研究代表者は、すでに資料を手元に収集しており、残された課題の検討にすみやかに入ることができると考えられた。

2に掲げた研究目的達成のため、研究分担者である有元伸子は、内地 女性作家・教育者たちによる寄稿作品を主な分析対象とし、もう1名の研究分担者である柳瀬善治は内地 男性作家・教育者たちによる寄稿作品を主な分析対象とする。研究代表者である下岡友加は、在台日本人作家や愛国婦人会関連の寄稿者たちの作品分析と未発見巻の調査、並びに研究全体の進行の統括を行うことと役割分担を決めて研究を実施した。

4. 研究成果

本研究の成果としては次の三点があげられる。第一に、研究期間中に『台湾愛国婦人』全88冊中、82冊の所在を明らかにし、その内容を確認しえたことである。岩手県奥州市立斎藤實記念館所蔵分の発見は三人社（京都の出版社）によるものであるが、研究代表者の下岡は実際の雑誌確認作業に立ちあうことで、新たな資料に基づいていち早くその存在と内容を分析することができた。三人社はこの発見を受けて2019年7月から『台湾愛国婦人』の復刻版の刊行を開始した。研究代表者の所有する巻も資料提供し、復刻版の解説も執筆担当の予定である。この復刻版刊行により、『台湾愛国婦人』は広く一般にアクセス可能な資料となり、本資料を用いた研究が格段に進展していくものと想定される。本研究はそうした今後の研究の基礎・基盤を形成することに寄与したと言える。

成果の第二点目として、実際に雑誌に掲載された内地 作家たちの作品の考察を行い、その評価を個別・具体的に行ったことがあげられる。本研究期間中、研究代表者の下岡は尾島菊子、国木田治子、岡本かの子の作品を紹介し、それぞれの作家における履歴と評価の更新を行った。研究分担者である柳瀬善治は講談『愛国婦人』を中心に分析し、その成り立ちとプロパガンダ性について多くの歴史資料をもとにつまびらかにした。研究分担者である有元伸子は少女小説作家・永代美知代の小品について考察した。研究協力者（大学院生）の阿部翔太は新渡戸稲造の全集未収録資料を紹介した。

さらに、成果の第三点目として、研究代表者の下岡は台湾に在住していた作家たちによる作品分析を行った。具体的には本雑誌編集者の一人と考えられる加納豊（筆名：加納抱夢）、台湾における児童文学者・西岡英夫（筆名：英塘翠）の作品分析である。彼らの作品からは内地 作家とは異なり、台湾総督府と深いつながりを持つ本雑誌の性格

への配慮や台湾在住者独自の視点が見られる。これらの考察は、植民地研究や台湾近代史にもつながるものであり、また本雑誌の複合的な性格を示す一助となりえたと考える。

以上の通り、研究期間内で力の及ぶ限り、多角的に雑誌の内容について掘り下げた。ただし、『台湾愛国婦人』の内容は広告や口絵、漢文欄も含めて膨大であり、本研究成果は資料全体から見ればごく一部に過ぎない。様々な視座からの研究アプローチが今後も俟たれることを最後に付言しておきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 下岡友加	4. 巻 6
2. 論文標題 戦後台湾の日本語文学 黄霊芝におけるブラック・ユーモア	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 跨境	6. 最初と最後の頁 61-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 下岡友加	4. 巻 78
2. 論文標題 「達人 (adept)」としての日本語俳句 ポストコロニアル台湾の日本語作家・黄霊芝の方法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 69-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 下岡友加	4. 巻 77
2. 論文標題 尾島菊子「蚊ばしら」翻刻・紹介 『台湾愛国婦人』掲載小説	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 広島大学大学院文学研究科論集	6. 最初と最後の頁 47-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.15027/44892	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 下岡友加	4. 巻 13
2. 論文標題 国木田治子と『台湾愛国婦人』 小説「女優志願」翻刻・紹介を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 表現技術研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.15027/45395	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 下岡友加	4. 巻 20
2. 論文標題 明治末期の自分小説 初期『白樺』とその周辺	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 有島武郎研究	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下岡友加	4. 巻 45
2. 論文標題 植民者は被植民者の文化を語りうるか? 『台湾愛国婦人』掲載・西岡英夫(英塘翠)「生蕃お伽噺」をめぐる考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 台湾日本語文学報	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下岡友加	4. 巻 244
2. 論文標題 幻の処女小説 岡本かの子『台湾愛国婦人』掲載三小説をめぐる考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国文学攷	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柳瀬善治	4. 巻 21
2. 論文標題 雑誌『台湾愛国婦人』における演芸速記について 講談『愛国婦人』における「新選組」「幕長戦争」表象を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア社会文化研究	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部翔太	4. 巻 237
2. 論文標題 新渡戸稲造と雑誌『台湾愛国婦人』：新資料紹介を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国文学攷	6. 最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柳瀬善治	4. 巻 12
2. 論文標題 「戦う女」・「演説＝議論する女」・「慈愛の女」- 雑誌『台湾愛国婦人』収録の「講談」作品を読む -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 植民地文化研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有元伸子	4. 巻 15
2. 論文標題 少女小説模索期の永代美知代 『台湾愛国婦人』掲載作品を視座として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 表現技術研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件(うち招待講演 1件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 下岡友加
2. 発表標題 西岡英夫と雑誌『台湾愛国婦人』
3. 学会等名 台湾史研究会10月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下岡友加
2. 発表標題 『台湾愛国婦人』掲載・英塘翠『生蕃お伽噺』考
3. 学会等名 台湾日本語文学会創立30周年輔仁大学日本文学科50周年記念シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下岡友加
2. 発表標題 物質としての日本語 台湾の日本語作家・黄靈芝の言語観
3. 学会等名 昭和文学会春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳瀬善治
2. 発表標題 『台湾愛国婦人』における演芸速記本について
3. 学会等名 日本近代文学会東海支部研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳瀬善治
2. 発表標題 『講談 愛国婦人』・雑誌『台湾愛国婦人』を読むその2
3. 学会等名 ヒーロー表象研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下岡友加
2. 発表標題 戦後台湾の日本語小説・黄靈芝文学におけるユーモア
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語文学フォーラム（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 下岡友加
2. 発表標題 ポストコロナル台湾の日本語作家・黄靈芝の方法
3. 学会等名 広島大学国語国文学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 下岡友加
2. 発表標題 戦後台湾の日本語表象・黄靈芝文学の方法
3. 学会等名 台日国際検討会（台湾史研究会・台湾歴史学会シンポジウム）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 下岡友加
2. 発表標題 『台湾愛国婦人』掲載・岡本かの子の三小説
3. 学会等名 日本文学協会研究発表大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下岡友加
2. 発表標題 『台湾愛国婦人』掲載小説・加納抱夢「夢」考
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語文学フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下岡友加
2. 発表標題 『台湾愛国婦人』の性格 斎藤實記念館蔵書を踏まえて
3. 学会等名 1930年代における東アジア女性雑誌の比較研究研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳瀬善治
2. 発表標題 「戦う女」・「演説＝議論する女」・「慈愛の女」 - 雑誌『台湾愛国婦人』収録の「講談」作品を読む -
3. 学会等名 日本近代文学会秋季大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 下岡友加	4. 発行年 2019年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 248
3. 書名 ポストコロナル台湾の日本語作家	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	柳瀬 善治 (YANASE yoshiharu) (10782328)	広島大学・総合科学研究科・准教授 (15401)	
研究分担者	有元 伸子 (ARIMOTO nobuko) (50202768)	広島大学・文学研究科・教授 (15401)	